

公益社団法人私立大学情報教育協会
2022年度第1回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会、情報リテラシー・情報倫理分科会、分野別情報教育分科会

I. 日 時：令和4年8月22日（月） 14：00～16：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 参加者：大原副委員長、吉田委員、白木委員、玉田主査、佐々木委員、高橋委員、中西委員、
本村委員、山口委員、小原委員、松尾委員、阿部委員、大久保委員、石川委員、
渡辺アドバイザー 事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 委員の紹介

親委員会、情報リテラシー分科会、分野別分科会の順に委員の紹介を行った。

V. 検討事項

1. 教育イノベーション大会分科会Hでのデータ活用育成に向けた授業実践の紹介について、当日に報告する内容を検討した。

(1) 社会で求められる情報活用能力としてガイドラインの紹介について

- ・ 高校情報教育の変遷から必修として情報Iが2022年から開始されている。
- ・ 4年間を通して情報活用能力育成を目指している。
- ・ 江戸川大学でガイドラインに対応した取組みの紹介について、1年前期で問題解決サイクルを実践し、問題解決のコツを中心に関連付けて考えさせることを進めている。
- ・ コンソーシアムでの教材資料の掲載や意見交換会を紹介する。

(2) システム設計授業の紹介について

- ・ 具体的に出欠確認システムを取り上げ、要件定義から合理的判断課程へ最適解導入をさせ、論理的に思考する力の修得を目指している。

(3) 文系の情報で何を学ばせるべきかについて

- ・ 技術者とユーザをつなぐ役割を身に付けさせるため、Webアプリ開発の授業カリキュラムを再設計している段階で、授業やゼミでの取組みを紹介する。

(4) 3年生のデータサイエンス授業について

- ・ 全学でのデータ活用教育の中で、データ処理結果と実際の現場との結び付けを提案し、問題点をデータ分析に変換して考えられる能力を育成している。

(5) 大会での報告内容について委員の意見

- ・ 全体の流れの中で、コツの説明が活かされておらず、繋がりが悪い印象を感じる。
- ・ 文系でのデータサイエンスは共感するが、事例紹介を多くするイメージで良いのではないかと。または、学生の成果を見せても参考になるのではないかと。
- ・ 苦労している点、文系大学でのプログラミング教育、論理的思考の難しさへの工夫など授業内で理解不足の学生へのフォローや授業規模なども含めて説明してはどうか。
- ・ 問題解決の枠組み理解をどのように図り、パターンプラクティスでも良いのか、数学的思考などどのような下地を持っているのか、理解が追いつかない学生へのフォローなどを整理してはどうか。
- ・ 学科内でカバーしているカリキュラムの再設計を説明してはどうか。
- ・ 授業について、学生がどこまで理解できているのかを説明してはどうか。具体事例なので、これまでの学生の伸びが分かれば参考になるのではないかと。プログラミングでは学生にどこまで開発をやらせたのか興味があるのではないかと。
- ・ コアカリキュラムにデータサイエンスが入ることで、やりたいことを実現できる能力や考え方文書化する能力も求められるのではないかと。必須授業でのフォローアップ、評価など説明に入れてはどうか。
- ・ システム開発へのつなぎの位置づけやAI活用などの流れを整理してはどうか。
- ・ 情報Iを受けて入学するが、修得不足の学生に対してのフォローを考えて、どのように対応したいのかを説明してはどうか。

VI. 今後のスケジュール

9月7日の教育イノベーション大会分科会Hで、委員の意見を反映した内容で授業実践例を紹介することになっている。